出血症状を呈する症例における線溶抑制因子の遺伝学的検査につきまして

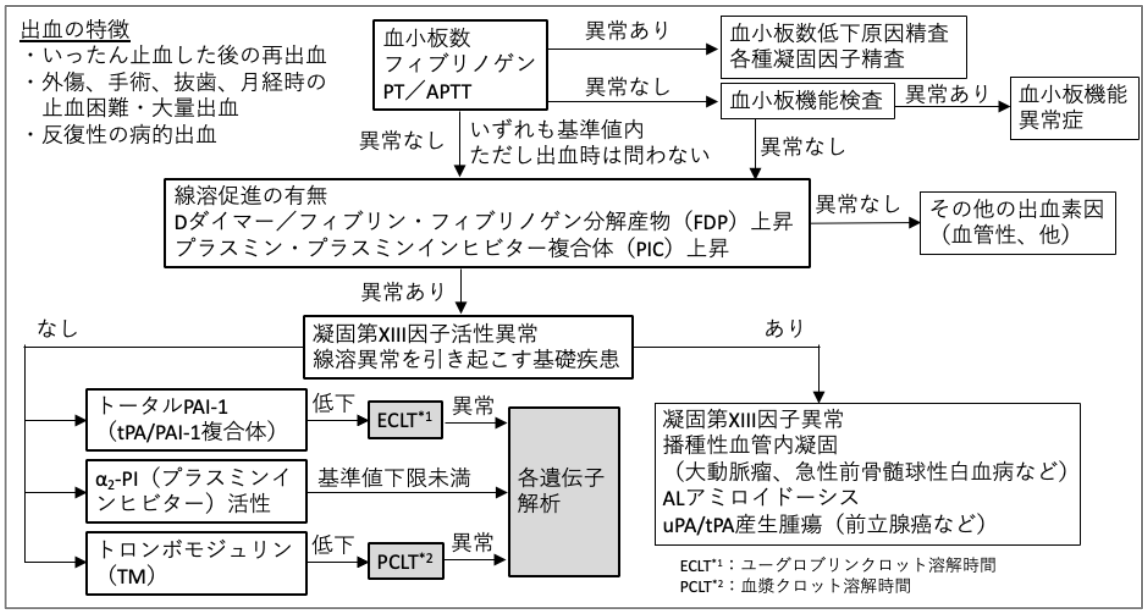
・プラスミノゲンアクチベータインヒビター１（PAI-1）

・α_2-プラスミンインヒビター（α_2-PI）

・トロンボモジュリン（TM）／トロンビン活性化線溶阻害因子（TAFI）

これらの線溶抑制因子の遺伝学的検査の実施につきましては、下記のフローチャートをご参照ください。遺伝子解析を実施する前に血漿解析（ECLT：ユーグロブリンクロット溶解時間、PCLT：血漿クロット溶解時間の測定）により、（該当線溶抑制因子）の機能不全を確認する必要があります。

出血性線溶異常症診断のためのフローチャート



日本血栓止血学会誌 2025:36,61-67

※ プラスミノゲンアクチベータインヒビター１（PAI-1）は正常血漿濃度の基準下限値設定がない．したがって PAI-1 低値 が PAI-1 欠乏症と混同されている．PAI-1 の線溶抑制活性は，ユーグロブリンクロット溶解時間（ECLT）により検出できる．

※ トロンボモジュリン／トロンビン活性化線溶阻害因子（TAFI）については，血漿クロット溶解時間（PCLT）により，TAFI 活性化能として検出できる．

血液凝固異常症等に関する研究班サブグループ：出血性線溶異常症研究班
事務局メールアドレス：sen-yo アット hama-med.ac.jp（アット→@）